

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第727号（令和六年九月号）表紙

- ・秋の季語：「柿（晩秋・植物）」あるいは「干柿（晩秋・生活）」
- ・来月号（十月号）の兼題



<柿>

柿は果物の中でもっとも古くから栽培されてきたもので、野生種からいろいろな種類に改良されてきた。実はあざやかな紅色に色づき、つやつやと輝いて美しい。甘柿と渋柿の二種に大別できる。甘柿には、御所・富有・次郎・禅寺丸などがあり、富有、次郎が最上品である。渋柿には会津身不知、平核無などがある。身不知は小粒だが、渋を抜くときわめてうまい。渋を抜くには酒や焼酎をふりまく。蜂屋は渋柿だが、干柿としてうまい。

(子季語) 渋柿／甘柿／富有柿／御所柿／次郎柿／禅寺丸／会津身不知／平核無／蜂屋柿／筆柿／似柿／木守

季語「柿」を詠った有名俳人の句に以下のようなものがあります。

- | | |
|-----------------|-------|
| ・里古りて柿の木持たぬ家もなし | 松尾芭蕉 |
| ・柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺 | 正岡子規 |
| ・よろよると棹がのぼりて柿挟む | 高浜虚子 |
| ・雲脱ぐは有明山か柿赤し | 水原秋櫻子 |

- ・柿食ふや命あまさず生きよの語 石田波郷
- ・吊鐘の中の月日も柿の秋 飯田龍太

季語「干柿」には次の様な有名俳人の句があります。

- ・夜空より外しきたりぬ吊し柿 八木林之助
- ・吊し柿すだれなしつつ窓を占む 和地清
- ・干柿の緞帳山に対しけり 百合山羽公
- ・串柿や老いてやまざる独語癖 上野可空

☆高得点者および高得点句

*前月の清記表に記載された13名の91句のなかから互選の結果、以下の同人が高得点者となりました。併せて高得点句も掲載します。

<高得点者（敬称略）>

17点 史浩

16点 勝、15点 碧亥、13点 恵吾、12点 六甲、

11点 穂心、10点 温州

<高得点句（5点以上）>

- ・新札に両替の列街盛夏／穂心・・・・・・・・7点
- ・物忘れ著き伴侶や蚊遣り香／恵吾・・・・・・・・5点
- ・静寂の午後の路地裏風鈴売り／勝・・・・・・・・5点

<4点句（惜しい！もう少しで5点）>

- ・夏シャツの選手の腕のタトゥーかな／甲舟
- ・茄子の紺策いっぱい溢れけり／善富
- ・梅雨晴れ間足どり軽く杖の友／六甲
- ・梅雨晴間妻の呟くわらべ歌／碧亥
- ・立葵姉の家族は十八人／史浩
- ・病棟の窓より追ひぬ日傘人／史浩

☆その他のトピックス

①「散歩道の自然～写真解説」：安本緑汀さん

先月号に引き続いてツツジを取り上げ解説されています。



○右上：クロフネツツジ（黒船躑躅）

- ・1668年朝鮮から渡来の朝鮮半島から中国北部原産のツツジ。ピンクの花の中心近くに赤色の斑点があり芳香もある。大輪で透き通るような美しいピンクで、欧米ではロイヤル・アザレアと呼ばれ珍重されている。4月、5月頃に咲き庭園によく植えられている。落葉低木。

○中上：キリシマツツジ（霧島躑躅）

- ・古くから植栽されている。1681年の日本最古の園芸書「花壇綱目」に記載され、薩摩から京都、江戸へと広まったとされる九州の誇る優れた品種である。葉は小型で厚い。4月、5月に開花し赤～濃紅色の燃え立つような花色は他に類を見ない。庭園や盆栽として利用価値が高い。常緑低木。

○左上：ドウダンツツジ（灯台躑躅）

- ・一般の躑躅と属が違うがツツジ科である。自生地は高知県の蛇紋岩地帯で紅葉が美しいので「錦山」の名がある。4月、5月に鐘形か壺形で先が五裂して下向きに咲く。花は白で葉に先がけて開花する。庭植え、生垣用。落葉低木。

○下四点：サツキ（皁月）

- ・ツツジは4月に開花するがサツキは5月に開花する。河岸の岩上に自生するが、広く愛培され多数の名木がある。庭木、鉢植え、盆栽と鑑賞価値が高い。特に盆栽に銘品が多数作出されている。常緑低木。

②緑汀さんの「散歩道の自然」：後藤碧亥さん

- ・先月号の「散歩道の自然～写真解説」で安本緑汀さんからご紹介のあった躑躅に纏わるご自身の思い出をエッセイとして寄せられています。
- ・ご自身が卒業された高校の校舎は少し小高くなった山の裾を切り開いたところに立っており、県道から校舎までのおよそ百mの穏やかな上り坂の両側は一面躑躅の花で埋

め尽くされ、通称「華の丘」と呼ばれていたそうです。

- この校舎の校門で、幼稚園以来の友人Mさんに見送られた卒業の日の事が昨日のことのように思い出されるとのことでした。
なお、Mさんは病弱のため二年の留年を余儀なくされていたとのことですが、碧亥さんが大学2年の夏、自ら命を絶ったとのことでした。

亡き友の面影白き花躑躅 碧亥

③令和6年度神戸支部総会開催：平林温州

- 神戸支部の支部総会が7月20日、湊川神社・楠公会館で開催され45名の方々が参加されました。
- 恒例となっている現役学生さんのプレゼンは、この度4回目の全国大会出場を果たした硬式野球部の部員3名によるクラブ活動の目標（日本一）、目的（人間形成）の説明に始まり日々の練習、社会貢献の実績、最近の戦績等について、弁舌爽やかに、流れるがごとく行われ、参加者一同大いに感銘を受けるとともに感心したところです。
- 懇親会の部は、「ホッと太鼓」による和太鼓演奏で幕を開けました。
- 会員相互の歓談が進んだところで、高商時代の学生服と学帽を支部幹部2名が着用し壇上で皆様に披露させて頂きました。これらの学生服と学帽は1981年（昭和56年）に開催された神戸ポートアイランド博覧会（ポートピア'81）を記念して神戸市他が企画・運営した「神戸寮歌青春コンサート（通称：寮歌祭）」に参加する際に新調されたものであります。
- デザートタイムでは「津軽三味線とマリンバの競演」を堪能して頂きました。それぞれの楽器はその道の一流プロが演奏され、マリンバと津軽三味線にとどまらず、マリンバとキーボードの競演もあり、参加者に馴染みの曲が何曲も演奏され大いに楽しめました。そして最後には、会場の全員による「上を向いて歩こう」の大合唱で「競演」はエンディングを迎えました。



④姫路エッセイストクラブ「水脈」26号より 2：北草炎様

「お月見団子」

- ・草炎様宅では、お月見には欠かせない習慣があったそうです。
- ・その習慣とは、月見団子を作り、里芋の煮物と一緒に供えるとともに、萩、ススキをいけて、供え物と一緒に飾ることです。
- ・ご主人がお元気なころは、この習慣はずっと守っていましたが、ご主人が亡くなられた一昨年は、ただ十五夜の月に手を合わすだけだったと。
- ・昨年は、生け花の用意まではできなかったものの、月見団子だけは作られたとのことです。
草炎様宅の月見団子は真ん丸でも饅頭型でもなく、一方の端が細くなっている実家風になっています。
- ・作り慣れた月見団子も一年間ブランクがあると戸惑ってしまうと。
小麦粉、パン粉が幅を利かせて、奥の方に追いやられしまった材料の米粉をやつとすることで引っ張り出し、練り上げて丸め、少量の塩を入れたお湯で茹で上げます。
- ・三宝は省略して、鉢に里芋の煮物、皿に月見団子を盛って、盆に載せ、布を被せた台の上に並べて縁側に飾られました。
丁度その時、勤務先から帰宅されたお嬢様が「わあ、お団子！ 帰りに買ってこよかと思たけど、もう売りきれてたんで諦めた。家で作ってるとは思わなんだあ」と大喜び。まるで子供の頃とおんなじだ。
- ・数日後お嬢様がスマホを見せてくれました。そこには美しい満月、縁側のお供えが載っていた。画面を繰っていくとお孫さん達の感想が出てきます。月の美しさを称え会話の後には月見団子に話に移っていきました。「おばあちゃんのお団子おいしかったよね」、「ヨモギ摘みに行って、ヨモギ団子作ってもらった。おいしかったなあ」とお嬢さんの子供たちの会話。仕事で子供の面倒を見てやれないお嬢さん夫婦に頼まれて「お助け婆ちゃん」でいった二十数年も前のことをよく覚えています。
- ・「お月見団子食べたい。蓬団子食べたい」とは、そんな経験を持たない息子さんの一人娘。「いつでもおいで、お団子作ってあげるよ」と返事を打ったそうです。

⑤次の方々が近況報告をされています。

- ・北草炎様
- ・河本要様
- ・安本緑汀様

⑥「生前句碑」での句会：穂永穂心様

- ・俳句仲間が京都・伏見の菩提寺に生前句碑を建てられ落成記念句会が開催されたので仲間ともに参加されたそうです。句碑を建てられたご友人は現在癌の治療中で過去五回も余命半年宣告を受けられ、生きているうちに自分で選んだ句を刻みたいと思われたのではないかとのことでした。
因みに句碑には、家族の事、妻の事、自分の事の次の三句が刻まれているそうです。
 - ・井戸ありて父母みて西瓜冷しけり
 - ・冬帽子妻の帽子に被せ置く
 - ・折鶴のすべて鋭角原爆忌

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の13名
- ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先;
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上
(文責：平林 温州)